

分枝系ストックの省力化に向けたセル育苗技術の検討

農業試験場 主査研究員 松本 比呂起

【要約】

分枝系ストック‘彼岸王’をセルトレイで育苗する際には、育苗期間を30日以内とし、定植後本葉12葉展開時を目安に摘心することで、切り花本数を確保しながら高品質の切り花を得ることができた。また、定植時にセル苗の根を先端から1/3程度切断することで、収穫時期の前進、切り花長の伸長といった効果がみられた。

【背景・ねらい】

分枝系ストックでは、これまで播種床、仮植床を経由してから本圃への定植を行う育苗方法がとられており、作業負担から近年セルトレイを利用した育苗が試行されているものの、採花本数の低下や切り花品質のバラツキが問題となっている。そこで、セル育苗での適切な育苗・栽培方法を確立する目的で、育苗期間・摘心時期を検討するとともに、慣行の移植栽培における根の切断を想定したセル苗への断根処理の効果も検討した。

【成果の内容・特徴】

1. 育苗期間を30日以内とすることで切り花本数を確保しながら高品質の切り花が得られたが、35日では切り花長が短くなり、上位階級品比率が減少した（図1、2）。
2. 摘心の時期は本葉12葉展開時を目安とするのが適当であり、育苗期間により10葉展開時の摘心では収穫本数の減少、14葉展開時の摘心では上位階級品の比率低下がみられる場合があった（図1、2）。
3. 定植時にセル苗の根鉢の先端から1/3程度切断することで、収穫時期がやや早まり、切り花長も少し長くなった（図3）。

各階級の規格は以下の通り
 2L：切り花長 60cm
 L：切り花長 50cm
 M：切り花長 40cm

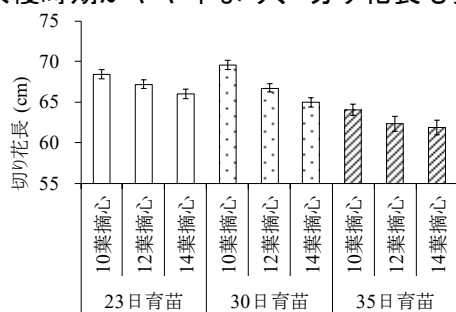


図1 育苗期間・摘心時期と切り花長
エラーバーは標準誤差を表す

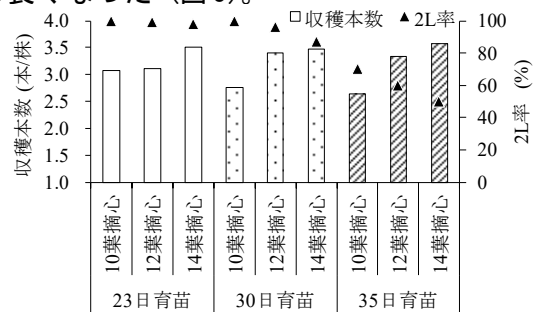


図2 育苗期間・摘心時期と切り花の収穫本数および上位階級品(2L品)比率

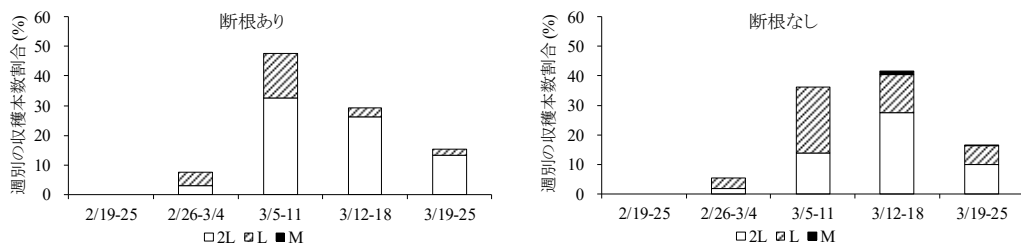


図3 断根処理の有無と切り花の出荷規格別収穫本数の推移